

# 大学における研究データ管理の実践 2 ～藤田医科大学の場合～



藤田医科大学  
FUJITA HEALTH UNIVERSITY



J-PEAKS | Fujita

Mind-BRIDGe

Fujita Mind-Brain Research & Innovation center for Drug Generation

藤田医科大学 研究推進本部 URA室長  
J-PEAKS リエゾン  
小清水 久嗣

## 独創一理



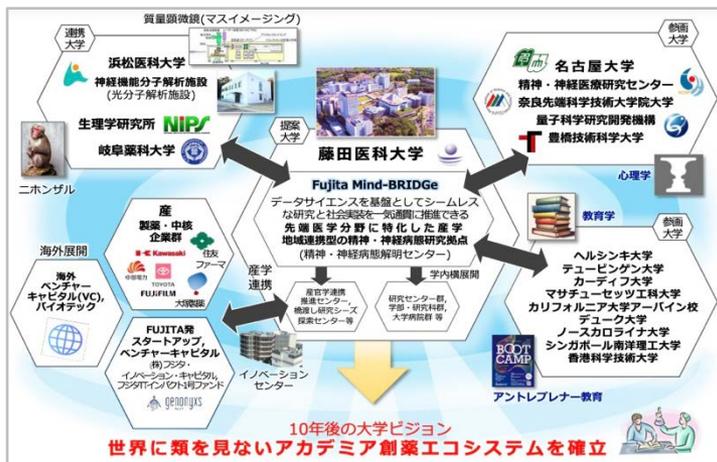
本学は基礎医学研究者が創設した伝統から、  
**研究を基盤**に、教育、臨床、社会貢献に  
絶え間なく取り組んでいます

Our creativity for the people  
私たちの創造力を人々のために

# 研究大学としてあゆみを進めている



## R6年 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)採択

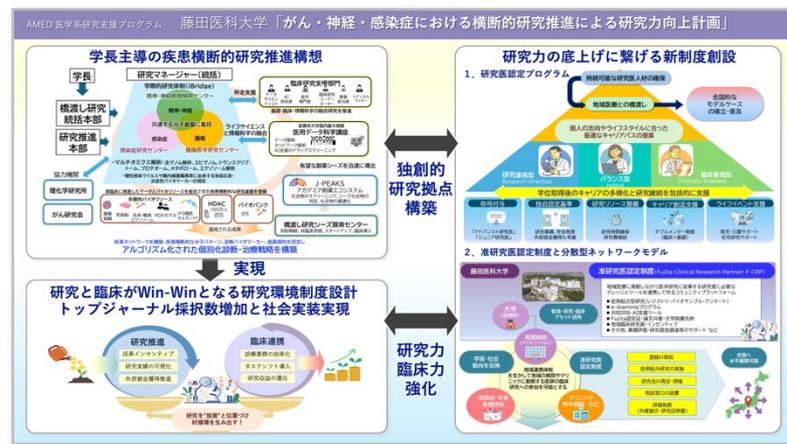


## R6年 橋渡し研究支援機関として認定

旧7帝大、筑波大、岡山大、がん研、慶應大に次いで12番目に認定

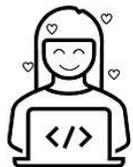


## R7年度 医学系研究支援プログラム 総合型で採択



しかし基盤をしっかりとしないと…





やりたいことがたくさんある！

データ利活用、AIを利用した研究  
異分野連携、産学連携

オープン  
アクセス  
義務化

DMP作成

研究公正

メタデータ  
付与

しかし、  
現実には？

研究倫理

研究データ  
10年保存

安全保障  
輸出管理

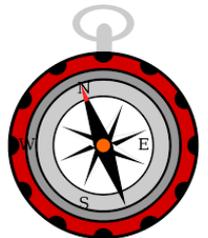
「余計な作業」を「研究の一部」に転換する  
研究活動に活力を生む**学術データ基盤**

# 診療と研究、教育、とても忙しい！



# 研究データ管理新時代への対応戦略

- I. 学術情報（論文および関連研究データ等）管理に関する学内組織の強化
- II. 本事業の指針となる研究データポリシーの策定
- III. 機関リポジトリおよびその他学術情報管理システムの機能拡大と運用体制強化
- IV. 研究者の意識改革と環境整備を通じたセルフアーカイブ文化の醸成



# 既存部局と連携、新規組織立ち上げ

2024

2025

2026

## 基本方針

文科省OA加速化事業

実質的にスタート

即時OA義務化

SD研修

APC補助

SD研修

文科省OA加速化事業

URA/URA室

図書館

研究データエコシステム 東海コンソーシアム

策定・公開

研究データ管理・公開ポリシー

OA/OS委員会

公開予定

解説・Q&A

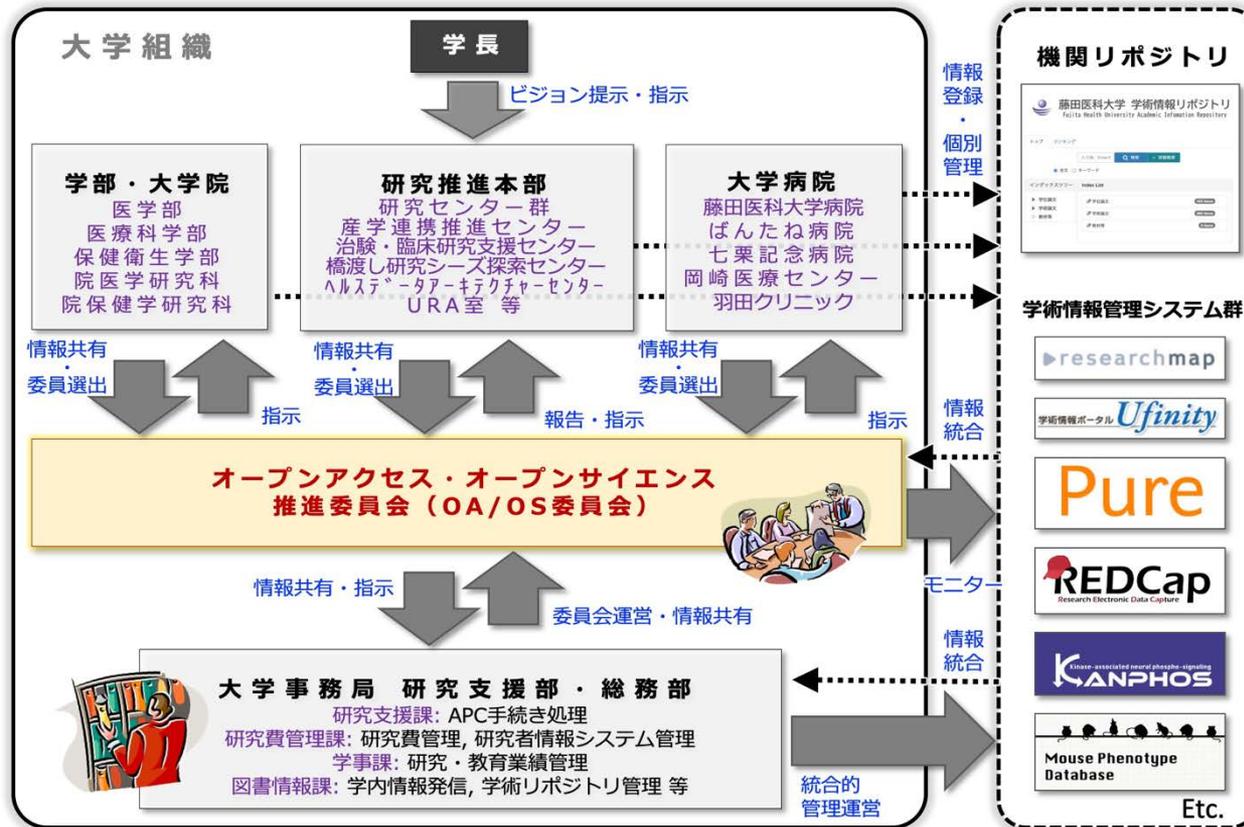
オープンファシリティセンター

運用開始予定

機関リポジトリの整備



# 教職員からなる委員会 = 実働部隊を編成



- R6年度にOA/OS委員会を編成
- 4つの取組を実行。定期的に会議を開催し、活動状況を大学執行部に共有
- URA室長を委員長とし、図書館長、治験・臨床研究支援センター長、医用データ科学講座教授、国際科学ジャーナルEIC、独自DB運営者、医療統計専門家、事務職員（図書館・研究支援）など学内のエキスパートで構成

# 研究データ管理新時代への対応戦略

- I. 学術情報（論文および関連研究データ等）管理に関する学内組織の強化
- II. 本事業の指針となる研究データポリシーの策定
- III. 機関リポジトリおよびその他学術情報管理システムの機能拡大と運用体制強化
- IV. 研究者の意識改革と環境整備を通じたセルフアーカイブ文化の醸成



# 藤田医科大学研究データ管理・公開ポリシー



理念：独創一理



管理：責任あるデータ運用



公開：透明性と再利用



還元：社会・地域へ



Hello World!

## 藤田医科大学研究データ管理・公開ポリシー

令和8年1月27日  
研究推進本部会議 承認

### （目的）

藤田医科大学（以下「本学」という。）は、建学の理念「独創一理」に基づき、研究活動の過程で生み出された研究データを適切に管理・公開することにより、学術研究のさらなる発展に寄与、また社会や地域への還元を促進し、研究データの価値を高めることを目的として、研究データ管理・公開ポリシー（以下「本ポリシー」という。）を定める。

### （研究データの定義）

本ポリシーが対象とする研究データは、本学における研究活動を通じて研究者が収集・生成したデータをいい、デジタル/非デジタルを問わないものとする。

### （研究者の定義）

本ポリシーが対象とする研究者は、本学において研究活動に携わる全ての教職員、学生等とする。

### （原則）

本学は、原則として、研究データを収集・生成した研究者が、研究データ管理、公開を行う権限と責務を有していることを認める。研究データの最終的な管理責任は、本学が負う。

### （研究者の責務）

研究者は、自らが収集・生成した研究データの価値を守るため、それぞれの研究分野の特質を踏まえ、関係諸法令及び本学諸規則等、倫理規範等に従って適切に管理し、可能な範囲でそれを公開し利活用に供する。

### （大学の責務）

本学は、学術データの保存・管理、公開及び利活用を支援する環境を整えるものとする。

（契約への劣後） 第三者との契約と本ポリシーが矛盾抵触する場合、当該契約が優先されるものとする。

### （免責）

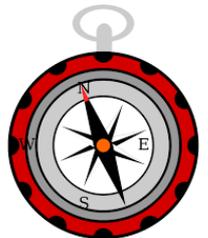
本学は、利用者が研究データを用いて行う行為に伴って生じる一切の不利益等に対して、いかなる責任も負わないものとする。

### （その他）

本ポリシーは、社会や学術状況の変化に応じて適宜見直しを行うものとする。

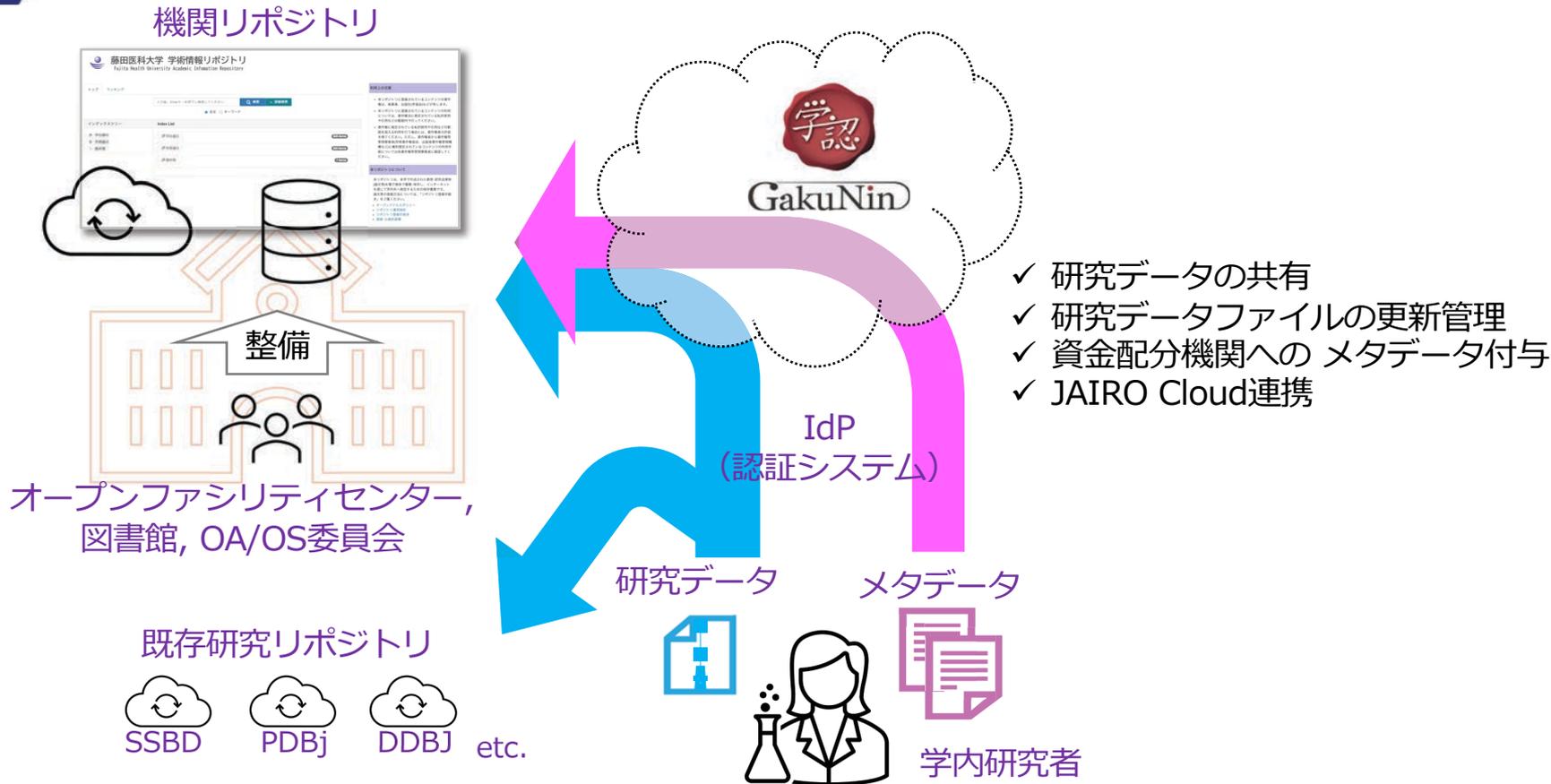
# 研究データ管理新時代への対応戦略

- I. 学術情報（論文および関連研究データ等）管理に関する学内組織の強化
- II. 本事業の指針となる研究データポリシーの策定
- III. 機関リポジトリおよびその他学術情報管理システムの機能拡大と運用体制強化
- IV. 研究者の意識改革と環境整備を通じたセルフアーカイブ文化の醸成





# GakuNin RDMを基盤システムとして根拠データ/メタデータを保存できる環境をR8年度中に研究者に提供



- R7年度後期：テストシステムの構築開始
- R7年度内：データ解析室で試用開始
- R8年度前期：全学利用に向けたシステム拡張、ストレージの整備
- R8年度後期：運用開始、利用者のための講習会実施

# 研究データ管理新時代への対応戦略

- I. 学術情報（論文および関連研究データ等）管理に関する学内組織の強化
- II. 本事業の指針となる研究データポリシーの策定
- III. 機関リポジトリおよびその他学術情報管理システムの機能拡大と運用体制強化
- IV. 研究者の意識改革と環境整備を通じたセルフアーカイブ文化の醸成



# 環境整備：図書館業務システム導入で事務作業を軽減

## 予約システム

- 電話受付・手作業で管理していた施設予約をシステム化（R6年度）
- 自宅から空室情報検索・予約できるようになったため利用者の利便性も向上

### ① Active Learning Room 2室



### ② 図書館 教員勉強室 6室



### システム構成図



## LIMEDIO 相互貸借

### 問い合わせ対応 平均110件 / 月

(従来) メールソフトを用いて個別にメール送信  
(導入後) システムから直接メール送信が可能となり、  
操作の簡便化・対応時間の短縮が実現

### 到着連絡 平均110件 / 月

(従来) 到着資料を掲示または学内便で周知  
(導入後) システムから到着連絡メールを送信できるようになり、迅速かつ確実に利用者への通知が実現

No.	状態	処理状態	依頼番号	ILLID	受付館略
1	発送		202508110	LA0279539006	東大柏
2	発送		202509006	LA0279555614	刈谷総
3	発送		202509007	LA0279555691	岐阜県香
			2509008	LA0279555807	岐阜県香
			2509009	LA027955583X	岐阜県香
			2509010	LA0279555840	岐阜県香

メール選択・送信

【複写依頼 - 確認(業務用)】メール

メールの種類 **文献複写\_通常**

To: 文献複写\_PPV

Cc: 文献複写\_取り寄せ無し

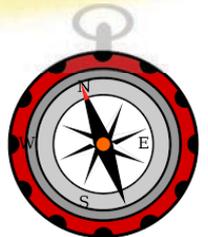
Bcc: 文献複写\_到着のお知らせ

Subject: 【図書館】お申込みの相互貸借(文献複写)について

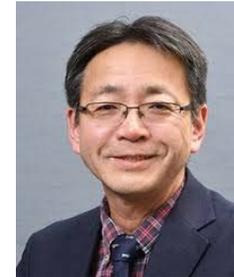
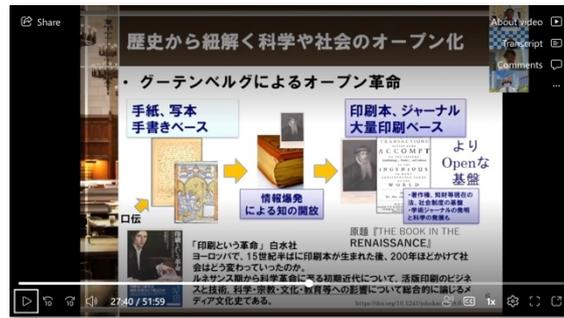
生じたエフォートで研究データ管理関連事業推進

# 研究データ管理新時代への対応戦略

- I. 学術情報（論文および関連研究データ等）管理に関する学内組織の強化
- II. 本事業の指針となる研究データポリシーの策定
- III. 機関リポジトリおよびその他学術情報管理システムの機能拡大と運用体制強化
- IV. 研究者の意識改革と環境整備を通じたセルフアーカイブ文化の醸成



# 研究データ管理に関するSD研修を開催・動画アーカイブ化



(現)JAIST  
小泉 周 先生



NISTEP  
林 和弘 先生

- 研究推進本部URA室を中心にオープンサイエンスの最新状況について有識者を招いてのSD研修開催や国内外関係会合参加等を通じ情報収集と執行部・学内への共有を行なってきた。



- 研究データポリシー策定に先駆け、研究データ管理に関するSD研修を開催。策定・公開後にもこれを解説するための講演(SD研修)を開催予定。

# 全学で研究データ管理に関するアンケートを実施

## オープンサイエンス・研究公正の推進に

## 係る「藤田医科大学における研究データ（デジタル情報）管理」に関するアンケート

### 【回答期間について】

本アンケートの回答受付期間は **2025年9月4日（木）～9月19日（日）**です。ご多忙のところ恐れ入りますが、円滑な調査実施のため、期間が過ぎますようお願い申し上げます。

### 【背景・目的】

近年、世界的なオープンサイエンスの潮流や研究DXによる研究データ発化が進む中で、国内においても政策文書に研究データの戦略的な研究成果の幅広い活用が盛り込まれており、それにより、科学研究費作成プログラムにおいて、研究データマネジメントプランの作成・提出が必須となっています。欧米の研究資金配分では、「研究データ管理」が重要な要素となっており、また、国際学術誌では、論文に記載された研究データを掲載の条件とするケースも増えております。

このような背景のもと、本学においても、既に取り組んでいたものの推進に加え、適切な研究データ管理に取り組むため、研究データの管理状況の把握及び今後の管理体制の検討については、研究データ管理・公開に関する意識、現況について、本アンケートを実施致しますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。本アンケートの質問は、全部で14セクションあります【[回答目録](#)】

あわせて、本学における研究データマネジメントポリシー案およびご確認いただけます。

- 藤田医科大学 研究データ管理・公開ポリシー（案）  
<https://www.dropbox.com/sc/fj/wobkccsc9fn8tvggdu4s?rlkey=dqy1585ih347mon1rk499kus&st=126donu1d1=0>
- 藤田医科大学 研究データ管理・公開ポリシー解説（案）  
<https://www.dropbox.com/sc/fj/9g90zk121o4yz229f3lbu?rlkey=ma1usep0wfz80wttnx8luj3w&st=xy914scz&dl=0>

さらに、本アンケートへの回答に関連して、2025年8月22日に開催する「[オープンサイエンスの現状と本学での取り組みに関する講演](#)」

**2025年9月4日（木）**にナレッジデリバリーにて公開予定です。研究データのわかりやすい解説ですので、ぜひあわせてご視聴ください。なお、いただいた質問とその回答については、Q&A等の形で公開が、すべての質問にお答えできない場合もあります。

### 研究データと研究データ管理

- このアンケートにおいて「研究データ」とは、「デジタル資料」「データ」「メディアコンテンツ」「プログラム」など、研究の実施に作成された「デジタル情報」をいいます。
- 「[学術機関による研究データ管理](#)」とは、（研究者個人ではなく）学術機関が研究データを保管・共有・公開する環境を整備し、そのことをいいます。
- 学術機関による研究データの管理の主な目的として以下が挙げられます。
  - ① オープンサイエンスの推進（研究データを研究者が相互に共有し、研究の効率がアップします）。
  - ② 研究公正の推進（論文で公表された研究成果の根拠となるデータにより、必要の際にデータを開示しやすくなります）。

## オープンサイエンス・研究公正の推進に係る「藤田医科大学における研究データ（デジタル情報）管理」に関するアンケート

koshimiz@fujita-hu.ac.jp アカウントを切り替える

共有なし

\* 必須の質問です

### 研究データ管理の認知・実態

学術機関による研究データ管理について、 usted でしたか？

- はい  
 いいえ

藤田医科大学の研究データの保存・管理に関する質問は論文等の発表後10年間」と定められていますか？

- はい  
 いいえ

収集・作成した研究データをどのように保管していますか？

- 個人が使用するパソコンやディスクなどに保管  
 研究室などの研究組織が管理するサーバやストレージ  
 大学や部局が管理するストレージなどに保管  
 他機関や商用サービスによる学外クラウドなどに保管  
 その他: \_\_\_\_\_

収集・作成した研究データのバックアップをどのようにしていますか？

- はい  
 いいえ

戻る 次へ

主な研究分野\*

- 基礎系（例：分子生物学、薬理学など）  
 臨床系（例：臨床医学、臨床研究、治験など）  
 社会科学系（例：心理学、看護学、リハビリなど）  
 工学・情報科学系（例：AI解析、画像処理など）  
 その他: \_\_\_\_\_

研究で主に扱うデータの種類の種類（複数選択可）\*

- ヒト由来データ（診療データ、臨床検体など）  
 動物実験データ  
 細胞・分子実験データ  
 画像・動画データ（例：顕微鏡、医用画像など）  
 数値データ（測定値、センサー記録など）  
 社会調査データ（アンケート、聞き取りなど）  
 ソースコード・解析ツール  
 その他: \_\_\_\_\_

普段扱う研究データの規模\*

- 100GB未満  
 100GB以上～1TB未満  
 1TB以上～10TB未満  
 10TB以上～1PB未満  
 1PB以上  
 不明  
 その他: \_\_\_\_\_

倫理審査が必要な研究を実施していますか\*

- はい  
 いいえ

### 研究データ保管状況（過去10年以内の論文について）

補足：以下の設問は、研究者としての立場（責任著者・共著者）、および共著者からの依頼対応について伺うものです。

※本アンケートは、大学における研究データ管理インフラの必要性を把握するために実施しています。

「いいえ」と回答しても一切の不利益やペナルティはありませんので、現状に即してお答えください。

#### ① 責任著者としての根拠データ提供\*

過去10年以内に公表した論文のうち、責任著者（コレスポンディングオーサー）または倫理審査申請の代表者として関与した論文について、当該論文の根拠となるデータをすべて保管しており、（研究公正上の問題が生じた場合等に）アクセスできますか？

- はい  
 いいえ  
 その他: \_\_\_\_\_

#### ② 共著者からの根拠データ提供要請\*

過去10年以内に公表した論文について、共著者から根拠データの共有を求められ、共有に制約（個人情報保護、契約など）が特にならない場合、それに応じますか？

- はい  
 いいえ  
 その他: \_\_\_\_\_

#### ③ 共著者としての根拠データへのアクセス\*

過去10年以内に公表した、自身が共著者の論文について、根拠となるデータすべて（他の著者が作成したデータを含む）を保管している、あるいは（研究公正上の問題が生じた場合等に）アクセスできますか？

- はい  
 いいえ  
 その他: \_\_\_\_\_

戻る

次へ

フォームをクリア

環境整備、情報の提供も進んでいる。  
研究者のこころの内への  
はたらきかけは？



# インセンティブ



## 学内教員研究助成

- 位置付け：研究者への支援として設定された学内の競合的研究資金。学外競争的研究費の補完となる研究活動の基盤的資金
- 複数カテゴリーが設定：研究室(講座・分野・部門)単位、科研費助成支援、若手研究、コラボレーション研究
- 評価：提案内容・論文業績・公的研究費の獲得状況のほか、学内学術イベントでの発表の有無など学内行事へのコミットメントも

審査要件への研究データ管理  
追加を議論中

# 課題はさまざま



- 人材（育成、属人化）
- 事務職の負担
- 大型医療情報基盤との連携

などなど

J-PEAKSでの好事例共有, NIIのご支援,  
研究データエコシステムコンソのご支援等期待!